TelGPX2 取扱説明書

書類番号: D0502105-01



株式会社 ワコー技研

Wacogiken co., ltd.

http://www.wacogiken.co.jp/

改訂履歴

版数	発行日	管理番号	改訂内容
第1版	2017年7月4日	D0502105	初版発行
第 2 版	2018年6月6日	D0502105-01	「出力:逆転中」機能の追加によりパラメータ、モニタ、 波形表示の項目に逆転中を追加 「アプリケーションの追加と消去」バージョン違いについての※注意書き修正 通信設定 タイムアウト加算時間の選択項目内容の修正 『3.2.4.1波形表示(W)』波形選択項目に表示可能範囲を 追加

著作権

Copyright © 2016-2017 Wacogiken co., ltd.

All rights reserved.

このマニュアルの全部または一部を問わず、

無断での複写、転載、公開等を行う事はできません。

商標

"Microsoft"、"Windows"及びその系列、"Virtual PC"、".NET Framework" これらは米国 Microsoft Corporation の各国における登録商標です。

システム要件

WindowsOS 日本語版

.NET Framework 4 が必須です。

こちら以外は動作保証対象外とさせて頂きます。ご了承ください。

サーバー系 OS 及び、Virtual PC 等の仮想環境での動作は保証対象外とさせて頂きます。

目次

1. 概要		1
2. アプリ	ケーションの追加と消去	1
2.1. W	/indows	1
2.2. T	プリケーションのインストール	1
2.2.1.	.NET Framework について	3
2.3.	プリケーションの起動	3
2.3.1.	デスクトップからの起動	3
2.3.2.	スタートメニューからの起動	3
2.4. T	プリケーションの修復(再インストール)	4
2.5. T	プリケーションの消去(アンインストール)	5
3. アプリ	ケーションの動作	6
3.1. ツ	ールバー	7
3.1.1.	ドライバ信号	7
3.1.2.	ドライバ内容	8
3.1.3.	通信	8
3.2. ×	ニューバー	10
3.2.1.	ファイル (F)	10
3.2.2.	パラメータ(P)	12
3.2.3.	モニタ(M)	28
3.2.4.	ツール(T)	41
3.2.5.	ウィンドウ (W)	48
3.2.6.	ヘルプ(H)	50
3.3. ス	テータスバー	51
3.3.1.	接続状況	51
3.3.2.	シリアルナンバー	51
3.3.3.	ドライバソフトウェアバージョン	51
3.3.4.	ドライバハードバージョン	51
3.3.5.	モータ型式	51
3 3 6	備老	51

1. 概要

パーソナルコンピュータ(以下「PC」)で通信ソフトを使用して以下の操作を行うことが出来ます。

- パラメータファイルの編集
- パラメータの変更
- ・ 状態のモニタ
- ・異常履歴の閲覧
- •波形表示
- 試運転
- ・ サーボ調整

2. アプリケーションの追加と消去

2.1. Windows

環境によっては「管理者モード」でログインをしないとインストール等の処理を行う事ができません。 詳しくはお使いの PC の管理者にお問い合わせください。

2.2. アプリケーションのインストール

アプリケーションを使用している PC にインストールします。

『setup.exe』を実行してください。



セットアップウィザードが起動しますので指示に従い操作を進めてください。











※この時 PC に既に新しいバージョンがインストールされている場合、インストールが完了しません。 旧バージョンを入れる場合、まず新バージョンの削除(アンインストール)を行ってください。



2.2.1. .NET Framework について

本アプリケーションは「.NET Framework 4」が必須です。



「.NET Framework 4」がない場合は、インストールする必要があります。

「dotNetFramework4」のフォルダ内にある『dotNetFx40LP_Client_x86_x64ja.exe』を実行してください。

2.3. アプリケーションの起動

2.3.1. デスクトップからの起動

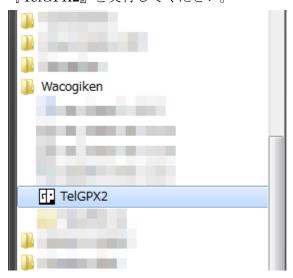
アプリケーションが正常にインストールされると、デスクトップにショートカットが作成されます。 『TelGPX2』のショートカットを実行してください。



2.3.2. スタートメニューからの起動

Windows7 の場合

「スタートメニュー」「すべてのプログラム」「Wacogiken」の下に『TelGPX2』が作成されます。 『TelGPX2』を実行してください。



2.4. アプリケーションの修復(再インストール)

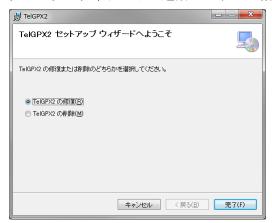
何らかの理由によりアプリケーションファイルに破損が生じ動作できなくなってしまった場合、「修復」 を行う事で正常な状態に戻すことができます。

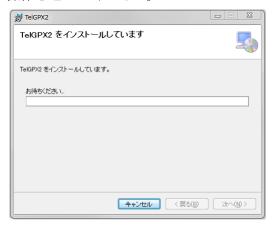
『setup.exe』を実行してください。

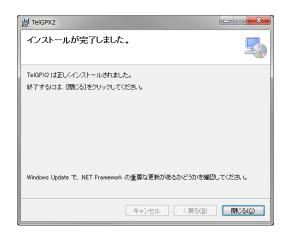


※この時、別バージョンがインストールされていると「修復または削除」画面が起動しません。アプリケーションの修復は必ず同じバージョンの『setup.exe』で行ってください。

セットアップウィザードが起動しますので指示に従い操作を進めてください。







2.5. アプリケーションの消去(アンインストール)

アプリケーションを PC から削除します。アプリケーションが不要になった場合に削除を行う事でドライブの空き容量を増やすことができます。

『setup.exe』を実行してください。

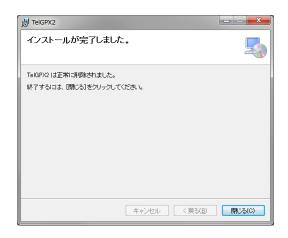


※この時、別バージョンがインストールされていると「修復または削除」画面が起動しません。 『setup.exe』からのアプリケーションの削除は同じバージョンの『setup.exe』をご使用ください。 別バージョンのアプリケーションは、コントロールパネルの[プログラムと機能]からアンインストールしてください。

セットアップウィザードが起動しますので指示に従い操作を進めてください。



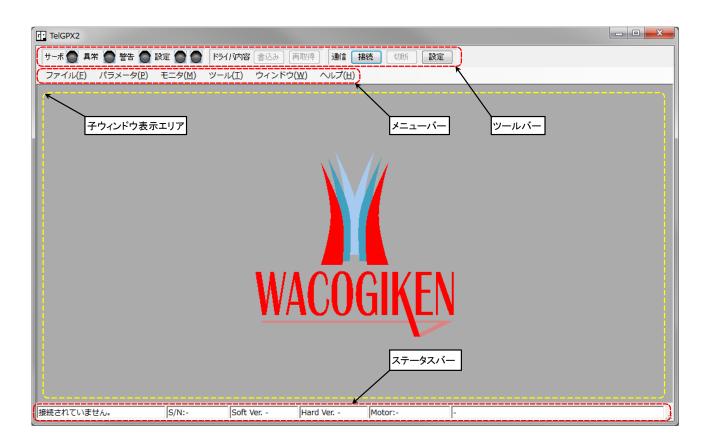




3. アプリケーションの動作

アプリケーションウィンドウは以下の4つで構成されています。

- ・ツールバー
- ・メニューバー
- ・子ウィンドウ表示エリア
- ・ステータスバー



3.1. ツールバー

ツールバーにはドライバの状態を示す『ドライバ信号』、パラメータの取得と保存が出来る『ドライバ 内容』、ドライバーツール間の接続などを行う『通信』があります。

3.1.1. ドライバ信号



現在のドライバの状態を信号で示します。

ドライバと通信ソフトが接続状態でないと、すべての信号が消灯 🔘 (灰) します。

信号	内容
サーボ	サーボオンすることで、(緑)に点灯します。
	サーボオフで消灯します。
異常	ドライバに異常が発生すると、(赤)に点灯します。
	リセット可の異常は、リセット入力で消灯します。
	リセット不可の異常の場合は電源再投入するまで消灯しません。
	異常発生中は信号をクリックすることで『異常・警告モニタ』を開きます。
<u> </u>	ドライバに警告が発生すると、(橙)に点灯します。
	警告が解消されると消灯します。
	警告発生中は信号をクリックすることで『異常・警告モニタ』を開きます。
設定	電源再投入が必要なパラメータが変更されると、(黄)に点灯します。
左側	変更を有効にするには、ドライバ内容『書込み』ボタンで編集パラメータをドライバに保
\bigcirc	存してからドライバの電源を再投入してください。
	この信号はドライバの電源を再投入するまで消灯しません。
設定	ドライバに保存されていない編集パラメータがあると、(橙) に点灯します。
右側	ドライバ内容『書込み』ボタンで編集パラメータをドライバに保存するか、もしくは、『再
	取得』ボタンで編集パラメータをドライバに保存されている内容に戻すことで消灯しま
	चे _°
	この信号が点灯中に電源をオフすると、編集パラメータの内容はドライバに保存されませ
	λ_{\circ}
	この信号のみオフライン編集モードでも点灯します。
	オフライン編集モード中はメニューバー『ファイル(F)』の『ファイルを開く(O)』『上書き
	保存(S)』『名前を付けて保存(A)』で消灯します。

3.1.2. ドライバ内容

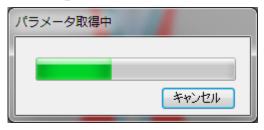
ドライバと未接続状態の表示	ドライバと接続状態の表示
ドライバ内容 書込み 再取得	ドライバ内容(書込み)(再取得)

3.1.2.1. 書込み

『書込み』ボタンを押すと、編集パラメータをドライバに上書き保存します。

3.1.2.2. 再取得

『再取得』ボタンを押すと、編集パラメータの内容をドライバに保存されている値に戻します。



3.1.3. 通信

COM ポートクローズ中の表示	COM ポートオープン中の表示	オフライン編集モード中の表示
通信 接続 切断 設定	通信 接続 切断 設定	オフライン編集

3.1.3.1. 接続

『接続』ボタンを押すと、通信設定の内容でドライバと通信ソフトを接続します。

ドライバと通信ソフトが接続状態になると自動でドライバに保存されているパラメータを取得します。

接続状態になった直後にドライバ信号『設定』の左側または右側が点灯した場合、パラメータ内容と取得した編集パラメータ値が異なっています。電源再投入するか、またはドライバ内容の『再取得』ボタンで消灯させてください。

3.1.3.2. 切断

『切断』ボタンを押すと COM ポートをクローズします。

3.1.3.3. 設定

『設定』ボタンを押すと通信設定ウィンドウが開きます。



操作	動作
COM ポートの選択	一番上のコンボボックスから接続対象の COM ポートを選択してください。
デバイス情報の	『デバイス情報の更新』ボタンを押すと、選択できる COM ポートの項目を、
更新	現在 Windows が認識している COM ポートに更新します。対象 COM ポー
	トが表示されていない、または通信設定を開いた後に COM ポートが増減し
	た際に実行してください。
ボーレート	通信ボーレートの設定です。115200、57600、38400、19200、9600 から選
	択してください。
パリティ	パリティ bit の選択です。パリティなし、奇数、偶数から選択してください。
データビット	データビット長の設定です。8bit 固定となります。
ストップビット	ストップビットの設定です。
対称軸設定	対称軸の軸数の設定です。
	『1対1軸』か『1対多軸』から選んでください。
対象 ID	通信対象 ID を設定します。
	『対称軸設定』が1対1軸では『 FF 』固定となります。1対多軸では『 $0\sim$
	7』で設定します。
タイムアウト加算	タイムアウトになるまでの時間に加算する時間です。なし、500[msec]、
時間	1000[msec]、1500[msec]・・・4500[msec]、5000[msec]から設定してくだ
	さい。

3.1.3.4. オフライン編集

オフライン編集モード中は『接続』『切断』『設定』ボタンは表示されません。

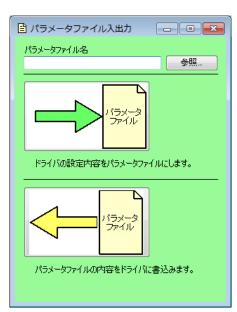
3.2. メニューバー

3.2.1. ファイル(F)



3.2.1.1. ファイル転送(F)

パラメータファイル入出力ウィンドウが開きます。 ドライバに保存されているパラメータを取得、設定します。



操作	動作
パラメータファイル名	パラメータファイルのディレクトリとファイル名を指定します。
参照	パラメータファイル名の参照をします。
ドライバの設定内容をパ	ドライバに保存されているパラメータをパラメータファイルにします。
ラメータファイルにしま	書込みされていない編集中のパラメータは反映されません。
す。	パラメータファイル名が存在しない場合は新たに作られます。
	パラメータファイル名が存在する場合は上書き保存されます。
	ドライバと通信ソフトが接続状態でないと実行できません。

パラメータファイルの内	ドライバに保存されているパラメータをパラメータファイルの内容に
容をドライバに書き込み	変更します。
ます。	パラメータファイル名が存在しない場合はパラメータファイルの選択
	ダイアログが表示されます。
	ドライバと通信ソフトが接続状態でないと実行できません。

3.2.1.2. リストア(R)

ドライバに保存されているパラメータをすべてリストアファイルの内容に変更します。 ドライバと通信ソフトが接続状態でないと実行できません。

3.2.1.3. リスト印刷(P)

ドライバに保存されているパラメータの内容を印刷します。 ドライバと通信ソフトが接続状態でないと実行できません。 オフライン編集中は編集パラメータを印刷します。

3.2.1.4. オフライン編集に移行(M)

通信ソフトをオフライン編集モードに移行させます。 現在開かれているウィンドウはすべて閉じられます。 通信状態は切断されます。

3.2.1.5. アプリケーションの終了(X)

ツールソフトを終了します。

3.2.1.6. 開く(O)

編集したいパラメータファイルを選択してください。

3.2.1.7. 上書き保存(S)

現在、開いているパラメータファイルに編集パラメータを上書きします。 パラメータファイルが存在しない場合は『名前を付けて保存(A)』と同じ処理を行います。

3.2.1.8. 名前を付けて保存(A)

現在の編集パラメータに名前を付けて保存します。

3.2.1.9. オンライン編集に戻る(M)

オンライン編集に戻ります。

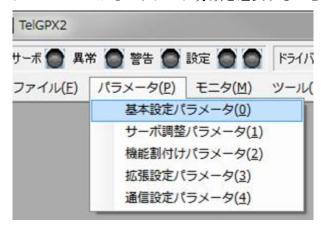
3.2.2. パラメータ(P)

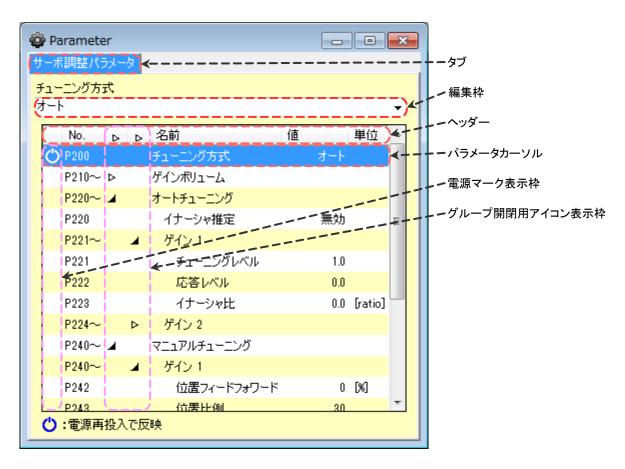
パラメータには分類があり、分類にはパラメータ項目とグループがあります。グループの中にはさらにパラメータ項目があり、グループがある場合もあります。

3.2.2.1. 分類

パラメータには分類があります。

メニューバーからパラメータ分類を選択することで、パラメータウィンドウを開くことが出来ます。





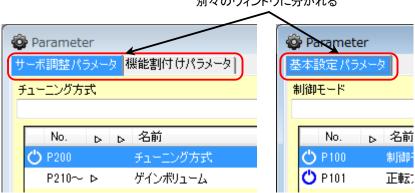
3.2.2.2. ウィンドウの操作

パラメータ分類は、それぞれ別々のタブで開かれます。

タブをドラッグ&ドロップすることで、タブを別々のウィンドウに分けたり、一つのウィンドウに まとめたりする事ができます。パラメータ以外のウィンドウとはまとめることができません。

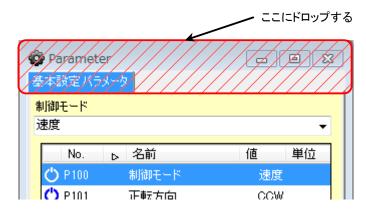
タブを別々のウィンドウに分ける。





タブを一つのウィンドウにまとめる







3.2.2.3. 項目について

パラメータには、単体パラメータ項目とグループパラメータ項目が存在します。

グループを展開、収束することでグループパラメータ項目の表示非表示を切り替えることができます。

グループは名前の左にグループ開閉用アイコン『▷』『▲』が付き、No.にはグループパラメータ内の一番若い番号に『~』が付いたものが表示されます。グループパラメータの名前はグループの名前より1段深く表示されます。

・グループの個別開閉 グループ開閉用アイコンをクリックすることで表示非表示を切り替えることができます。 表内の『▷』アイコンをクリックすることで、そのグループを展開することができます。グループ展開中はアイコンが『▲』に変化します。『▲』アイコンをクリックすることで、そのグループが収束します。

・パラメータ分類内の全グループの開閉

ヘッダーの『▷』アイコンをクリックすることで、パラメータ分類内の全てのグループが展開されます。全てのグループが展開しているとアイコンが『▲』に変化します。『▲』アイコンをクリックすることで、パラメータ分類内の全てのグループが収束します。

子グループの項目は親グループのアイコンでは展開、収束できません。子グループのアイコンで 展開、収束してください。

· 〇:電源再投入で反映

表の左に電源マークがあるパラメータ項目は電源投入時にドライバに保存されている値が有効 になります。

このパラメータの変更を有効にしたい場合は『書込み』ボタンを押してドライバの電源を再投入 する必要があります。

▼:設定選択型パラメータの選択

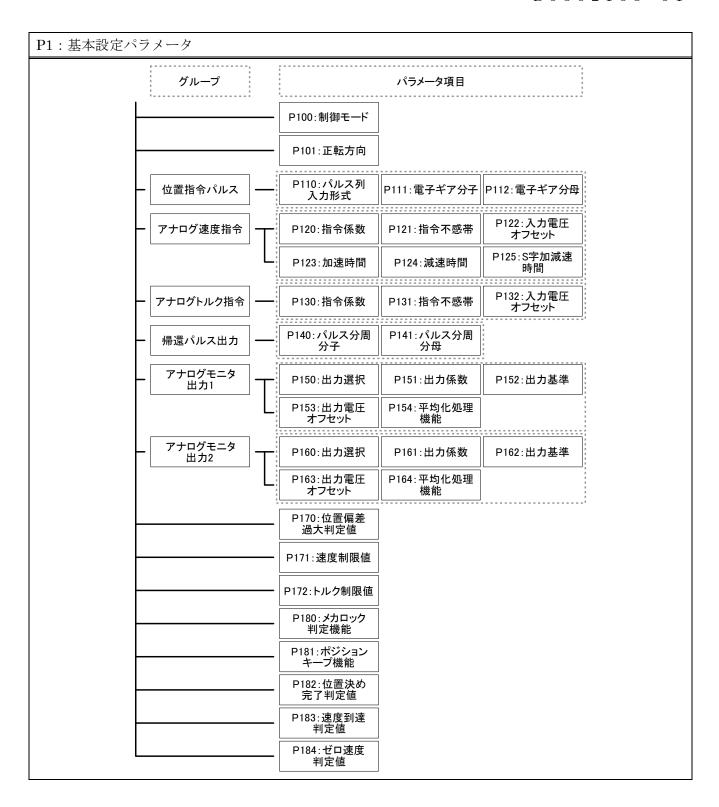
設定値選択型のパラメータは編集枠右側の『▼』をクリックして、選択項目を表示してそこから 選択してください。



3.2.2.4. 分類と項目

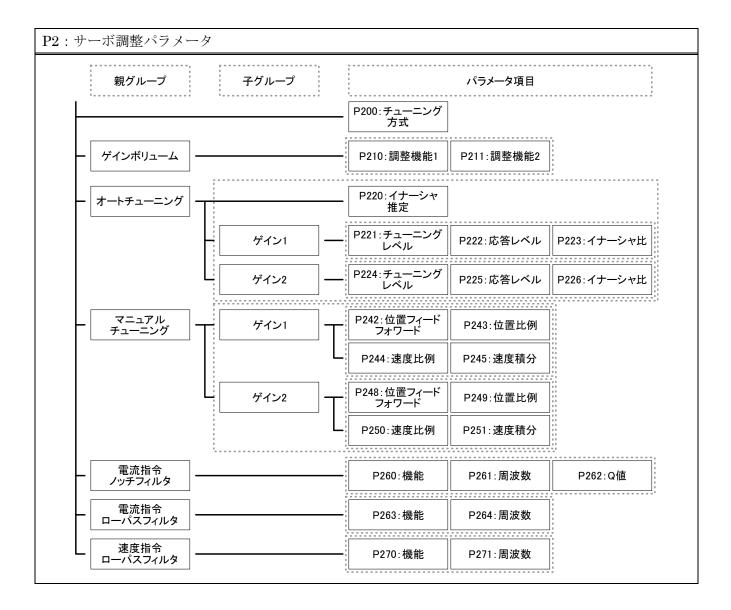
パラメータ分類 P1:基本設定パラメータ

グループ	No.	パラメータ項目	選択型
	P100	制御モード	タイプ 1
	P101	正転方向	タイプ 2
	P110	パルス列入力形式	タイプ 3
位置指令パルス	P111	電子ギア分子	
	P112	電子ギア分母	
	P120	指令係数	
	P121	指令不感带	
	P122	入力電圧オフセット	
アナログ速度指令	P123	加速時間	
	P124	減速時間	
	P125	S 字加減速時間	
	P130	指令係数	
アナログトルク指令	P131	指令不感带	
	P132	入力電圧オフセット	
	P140	パルス分周分子	
帰還パルス出力	P141	パルス分周分母	
	P150	出力選択	タイプ 4
	P151	出力係数	
アナログモニタ出力 1	P152	出力基準	
	P153	出力電圧オフセット	
	P154	平均化処理機能	タイプ 5
	P160	出力選択	タイプ 4
	P161	出力係数	
アナログモニタ出力 2	P162	出力基準	
	P163	出力電圧オフセット	
	P164	平均化処理機能	タイプ 5
	P170	位置偏差過大判定値	
	P171	速度制限値	
	P172	トルク制限値	
	P180	メカロック判定機能	タイプ 6
	P181	ポジションキープ機能	タイプ 6
	P182	位置決め完了判定値	
	P183	速度到達判定値	
	P184	ゼロ速度判定値	



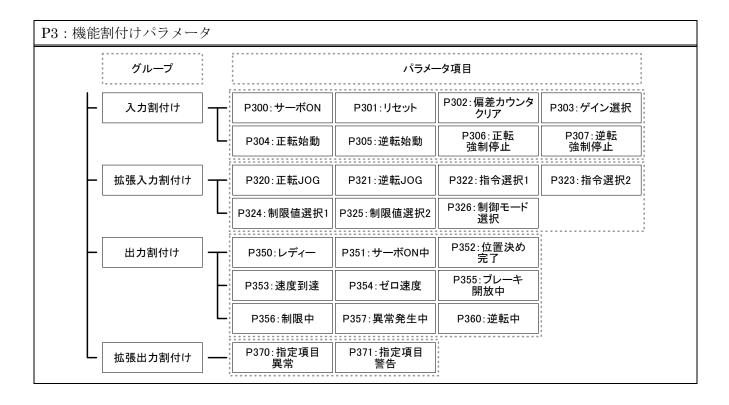
パラメータ分類 P2: サーボ調整パラメータ

親グル一プ	子グループ	No.	パラメータ項目	選択型
		P200	チューニング方式	タイプ 7
ゲインボリューム		P210	調整機能 1	タイプ 6
クィンホリューム 		P211	調整機能 2	タイプ 6
		P220	イナーシャ推定	タイプ 6
		P221	チューニングレベル	
	ゲイン 1	P222	応答レベル	
オートチューニング		P223	イナーシャ比	
		P224	チューニングレベル	
	ゲイン 2	P225	応答レベル	
		P226	イナーシャ比	
		P242	位置フィードフォワード	
	ゲイン 1	P243	位置比例	
		P244	速度比例	
 マニュアルチューニング		P245	速度積分	
\	ゲイン 2	P248	位置フィードフォワード	
		P249	位置比例	
		P250	速度比例	
		P251	速度積分	
		P260	機能	タイプ 6
電流指令ノッチフィルタ		P261	周波数	
		P262	Q 値	
電流指令ローパスフィルタ		P263	機能	タイプ 6
电川田 ヤローハヘノイルグ		P264	周波数	
速度指令ローパスフィルタ		P270	機能	タイプ 6
		P271	周波数	



パラメータ分類 P3:機能割付けパラメータ

グループ	No.	パラメータ項目	選択型
	P300	サーボ ON	タイプ 8
	P301	リセット	タイプ 9
	P302	偏差カウンタクリア	タイプ 9
入力割付け	P303	ゲイン選択	タイプ 8
人力制制的	P304	正転始動	タイプ 8
	P305	逆転始動	タイプ 8
	P306	正転強制停止	タイプ 8
	P307	逆転強制停止	タイプ 8
	P320	正転 JOG	タイプ 8
	P321	逆転 JOG	タイプ 8
	P322	指令選択 1	タイプ 8
拡張入力割付け	P323	指令選択 2	タイプ 8
	P324	制限值選択 1	タイプ 8
	P325	制限值選択 2	タイプ 8
	P326	制御モード選択	タイプ 8
	P350	レディー	タイプ 10
	P351	サーボ ON 中	タイプ 10
	P352	位置決め完了	タイプ 10
	P353	速度到達	タイプ 10
出力割付け	P354	ゼロ速度	タイプ 10
	P355	ブレーキ開放中	タイプ 10
	P356	制限中	タイプ 10
	P357	異常発生中	タイプ 10
	P360	逆転中	タイプ 10
拡張出力割付け	P370	指定項目異常	タイプ 10
	P371	指定項目警告	タイプ 10



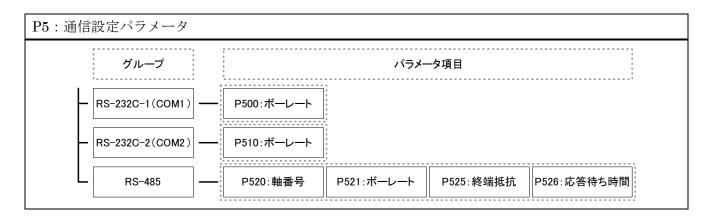
パラメータ分類 P4: 拡張設定パラメータ

グループ	No.	パラメータ項目	選択型
	P400	制限值選択機能	タイプ 6
	P401	拡張制御モード	タイプ 11
	P402	指定項目異常選択	タイプ 12
	P403	指定項目警告選択	タイプ 13
	P410	主電源バス電圧上昇	
	P411	主電源バス電圧低下	
	P412	トランジスタ温度	
警告判定値	P413	回生抵抗温度	
	P414	位置偏差	
	P415	速度超過	
	P416	実効トルク	
	P420	速度	
ジョグ	P421	加減速時間	
	P422	インチング移動量	タイプ 14
	P430	速度	
 内部速度 1	P431	加速時間	
内印述及	P432	減速時間	
	P433	S字加減速時間	
	P434	速度	
 内部速度 2	P435	加速時間	
内印还及 2	P436	減速時間	
	P437	S字加減速時間	
	P438	速度	
 内部速度 3	P439	加速時間	
以中体法の	P440	減速時間	
	P441	S字加減速時間	
	P450	内部トルク 1	
	P451	内部トルク 2	
	P452	内部トルク 3	
	P472	強制停止処理	タイプ 15

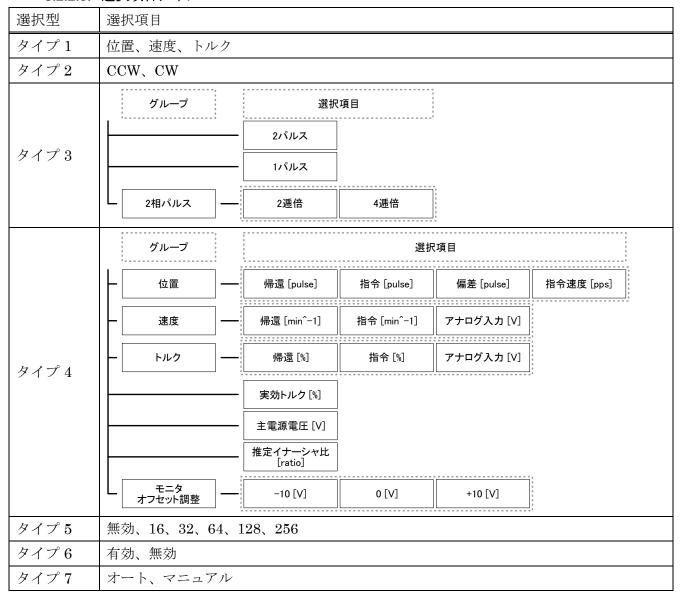


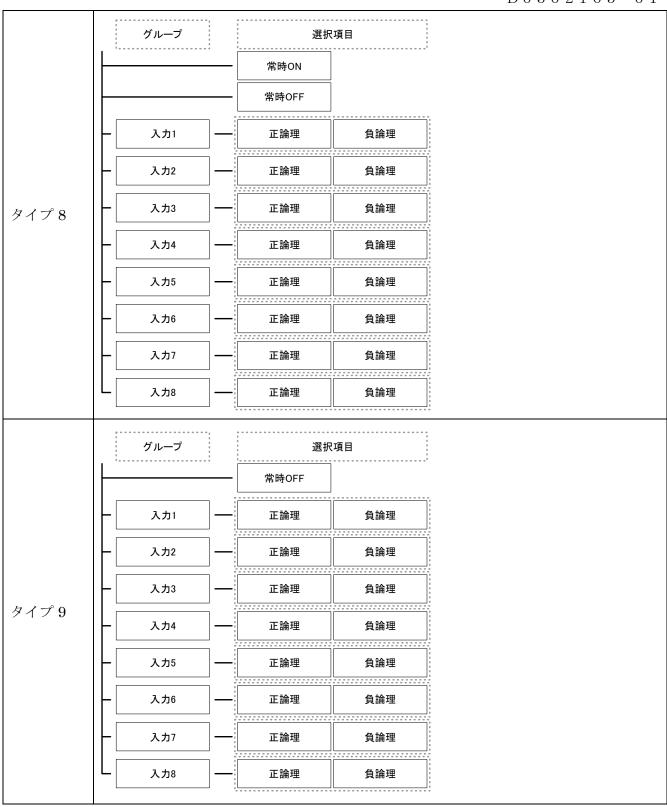
パラメータ分類 P5: 通信設定パラメータ

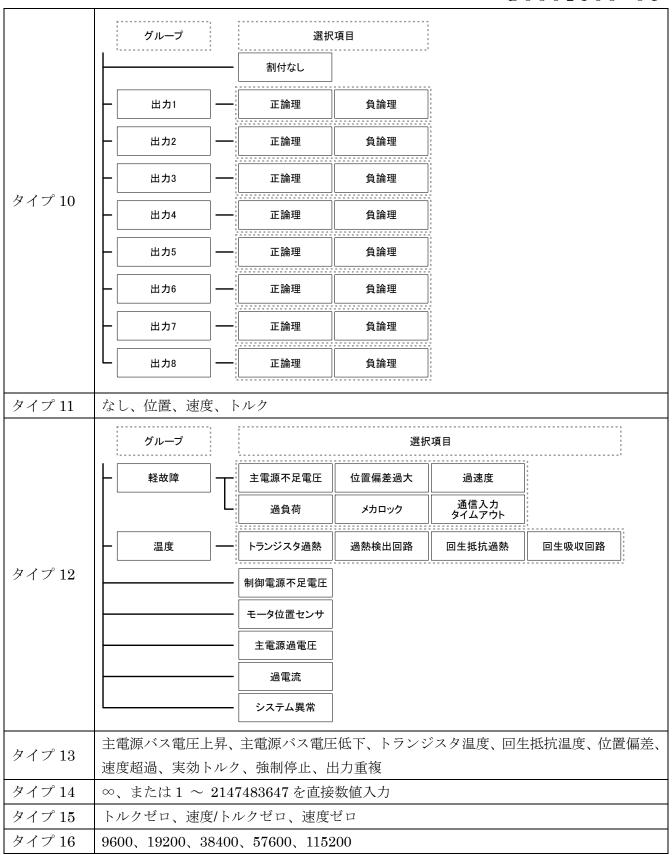
グループ	No.	パラメータ項目	選択型
RS-232C-1(COM1)	P500	ボーレート	タイプ 16
RS-232C-2(COM2)	P510	ボーレート	タイプ 16
RS-485	P520	軸番号	
	P521	ボーレート	タイプ 16
	P525	終端抵抗	タイプ 6
	P526	応答待ち時間	



3.2.2.5. 選択項目タイプ







3.2.3. モニタ(M)

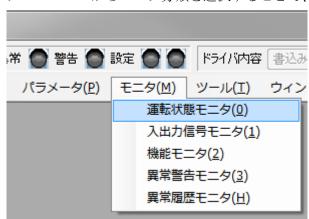
モニタには分類があり、分類にはモニタ項目とグループがあります。グループの中にはモニタ項目があります。

オフライン編集モード中は、『モニタ(M)』はメニューバーに表示されません。

3.2.3.1. 分類

モニタ分類には、数値を扱う「運転状態モニタ(0)」、信号状態を扱う「入力信号モニタ(1)」「機能モニタ(2)」「異常・警告モニタ(3)」、履歴を扱う「異常履歴モニタ(H)」があります。

メニューバーからモニタ分類を選択することで、モニタウィンドウを開くことが出来ます。



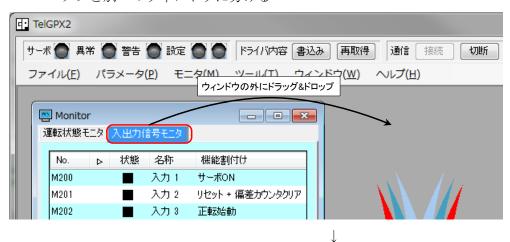


3.2.3.2. ウィンドウの操作

モニタ分類は、それぞれ別々のタブで開かれます。

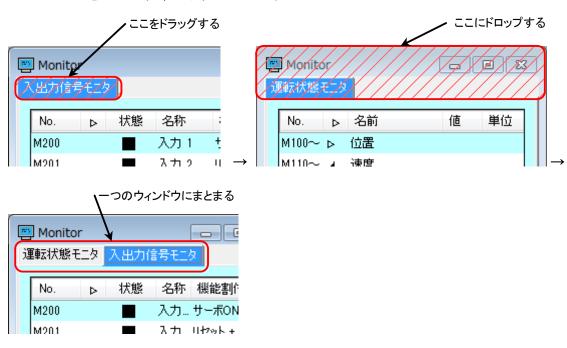
タブをドラッグ&ドロップすることで、タブを別々のウィンドウに分けたり、一つのウィンドウにまとめたりする事ができます。モニタ以外のウィンドウとはまとめることができません。

タブを別々のウィンドウに分ける





・タブを一つのウィンドウにまとめる



3.2.3.3. 数値と信号を扱うモニタ

数値モニタ、信号モニタには、単体モニタ項目とグループモニタ項目が存在します。 グループを展開、収束することでグループモニタ項目の表示非表示を切り替えることができます。 グループは名前の左にグループ開閉用アイコン『▷』『▲』が付き、No.にはグループモニタ内の一 番若い番号に『~』が付いたものが表示されます。グループモニタの名前はグループの名前より1

・グループの個別開閉

段深く表示されます。

グループ開閉用アイコンをクリックすることで表示非表示を切り替えることができます。 表内の『▷』アイコンをクリックすることで、そのグループを展開することができます。グルー プ展開中はアイコンが『▲』に変化します。『▲』アイコンをクリックすることで、そのグループ が収束します。

・モニタ分類内の全グループの開閉

ヘッダーの『▷』アイコンをクリックすることで、モニタ分類内の全てのグループが展開されます。全てのグループが展開しているとアイコンが『4』に変化します。『4』アイコンをクリックすることで、モニタ分類内の全てのグループが収束します。

モニタ項目の表示について

ドライバと通信ソフトが接続状態でモニタの『値』と『状態』が表示されます。 波形表示ツール RUN 中はモニタの更新は停止します。

ドライバと通信ソフトが接続状態でないと文字がグレーになり『値』、『状態』は表示されません。



3.2.3.4. 異常履歴モニタ

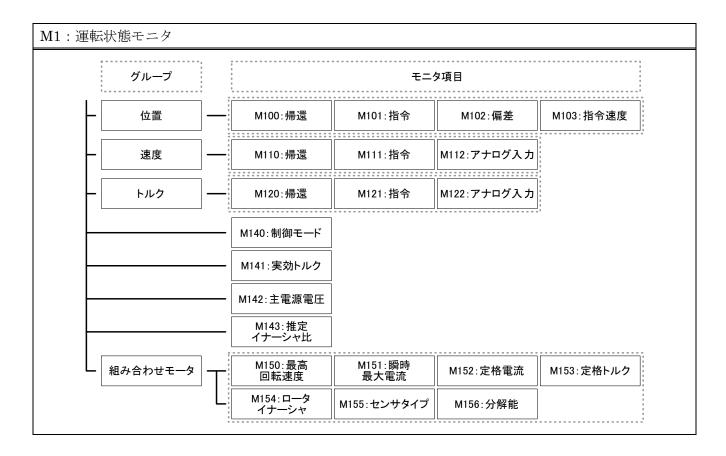


	内容
動作時間	電源投入後から現在の経過時間です。履歴再取得後に表示の更新が開始されます。
表示件数	履歴再取得時に表示される異常履歴の件数です。
	表示後に新たに異常が発生すると、表示の挿入がされます。
履歴再取得	異常履歴を取得します。このボタンが押されるまでは、動作時間と履歴表示の更新は行
	われません。また、COM ポートクローズ、対象と通信ができない状態でも動作時間と
	履歴表示の更新は行われなくなります。
ファイル保存	取得した異常履歴を保存します。表内に表示されていない履歴はドライバ内に保存され
	ていてもファイルには保存されません。
時間	異常が発生した時の電源投入後からの経過時間です。
▲▼	数値が少ないほど新しい履歴です。
	ヘッダー部をクリックすることで昇順、降順でソートします。
異常分類	異常内容の分類です。
	[軽故障]、[温度]、[制御電源不足]、[モータ位置センサ]、[過電圧]、[過電流]、[システム
	異常]があります。
内容	異常内容が表示されます。

3.2.3.5. モニタ分類と項目

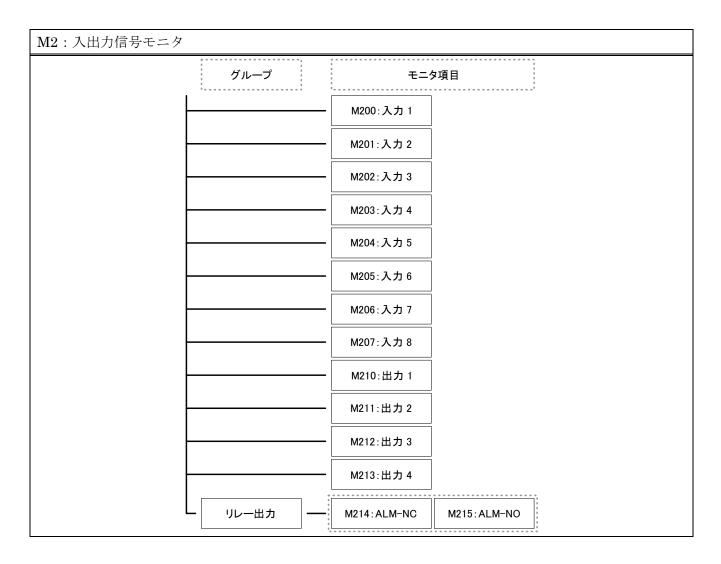
モニタ分類 M1: 運転状態モニタ

グループ	No.	モニタ項目
位置	M100	帰還
	M101	指令
	M102	偏差
	M103	指令速度
	M110	帰還
速度	M111	指令
	M112	アナログ入力
	M120	帰還
トルク	M121	指令
	M122	アナログ入力
	M140	制御モード
	M141	実効トルク
	M142	主電源電圧
	M143	推定イナーシャ比
	M150	最高回転速度
	M151	瞬時最大電流
	M152	定格電流
組み合わせモータ	M153	定格トルク
	M154	ロータイナーシャ
	M155	センサタイプ
	M156	分解能



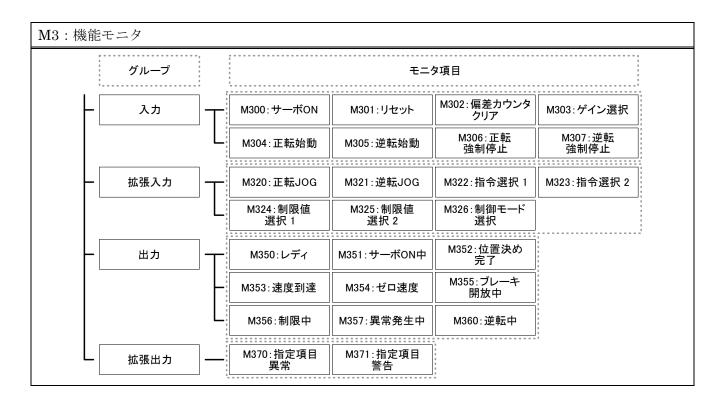
モニタ分類 M2:入出力信号モニタ

グループ	No.	モニタ項目	機能割付け
	M200	入力 1	機能割付けパラメータ:
	M201	入力 2	「入力割付け」グループ
	M202	入力 3	「拡張入力割付け」グループ
	M203	入力 4	の設定値により変化する
	M204	入力 5	
	M205	入力 6	
	M206	入力 7	
	M207	入力 8	
	M210	出力 1	機能割付けパラメータ:
	M211	出力 2	「出力割付け」グループ
	M212	出力 3	「拡張出力割付け」グループ
	M213	出力 4	の設定値により変化する
リレー出力	M214	ALM-NC	
・ソレー山刀	M215	ALM-NO	



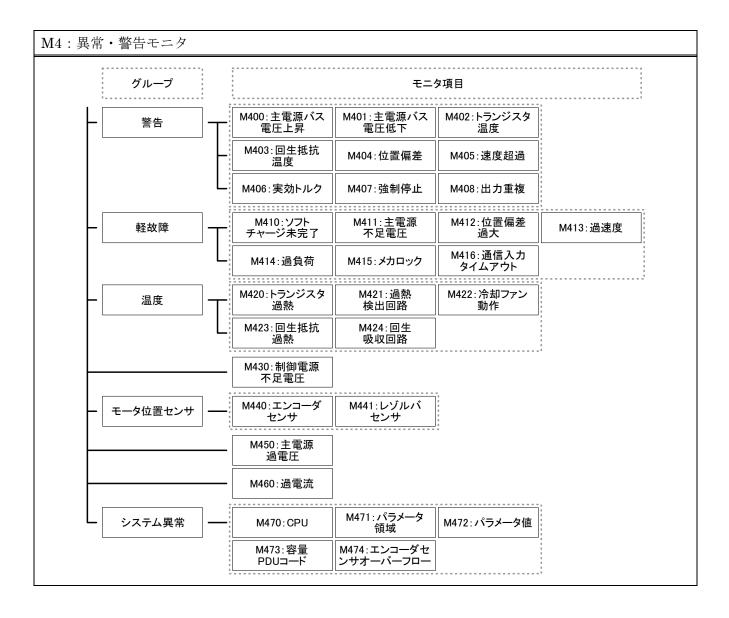
モニタ分類 M3:機能モニタ

グループ	No.	モニタ項目
	M300	サーボ ON
	M301	リセット
	M302	偏差カウンタクリア
 入力	M303	ゲイン選択
人刀	M304	正転始動
	M305	逆転始動
	M306	正転強制停止
	M307	逆転強制停止
	M320	正転 JOG
	M321	逆転 JOG
	M322	指令選択 1
拡張入力	M323	指令選択 2
	M324	制限値選択 1
	M325	制限值選択 2
	M326	制御モード選択
	M350	レディ
	M351	サーボ ON 中
	M352	位置決め完了
	M353	速度到達
出力	M354	ゼロ速度
	M355	ブレーキ開放中
	M356	制限中
	M357	異常発生中
	M360	逆転中
拡張出力	M370	指定項目異常
ルカヌロノノ	M371	指定項目警告



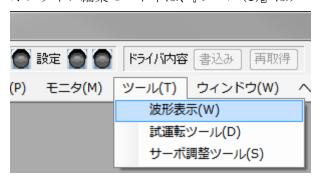
モニタ分類 M4: 異常・警告モニタ

グループ	No.	モニタ項目	出力指定項目
	M400	主電源バス電圧上昇	拡張設定パラメータ:
	M401	主電源バス電圧低下	「指定項目警告選択」
	M402	トランジスタ温度	の設定値により変化
	M403	回生抵抗温度	
警告	M404	位置偏差	
	M405	速度超過	
	M406	実効トルク	
	M407	強制停止	
	M408	出力重複	
	M410	ソフトチャージ未完了	拡張設定パラメータ:
	M411	主電源不足電圧	「指定項目異常選択」
	M412	位置偏差過大	の設定値により変化
軽故障	M413	過速度	
	M414	過負荷	
	M415	メカロック	
	M416	通信入力タイムアウト	
	M420	トランジスタ過熱	
	M421	過熱検出回路	
温度	M422	冷却ファン動作	
	M423	回生抵抗過熱	
	M424	回生吸収回路	
	M430	制御電源不足電圧	
モータ位置センサ	M440	エンコーダセンサ	
一ラ位直でフリ	M441	レゾルバセンサ	
	M450	主電源過電圧	
	M460	過電流	
システム異常	M470	CPU	
	M471	パラメータ領域	
	M472	パラメータ値	
	M473	容量 PDU コード	
	M474	エンコーダセンサオーバーフロー	

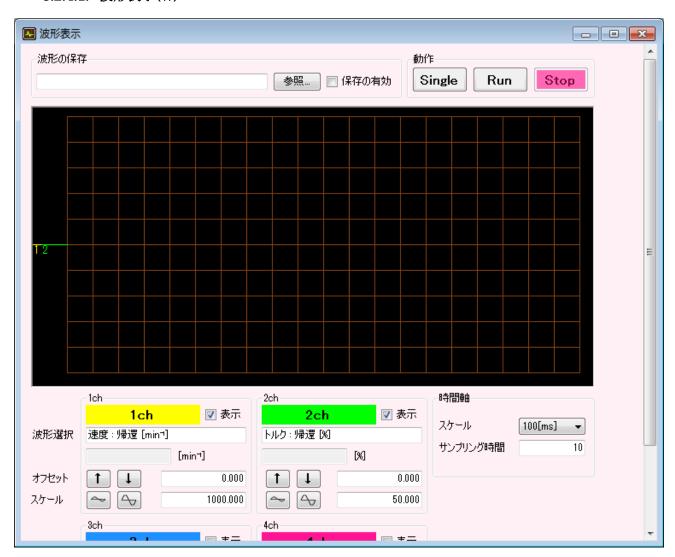


3.2.4. ツール(T)

オフライン編集モード中は、『ツール(T)』はメニューバーに表示されません。



3.2.4.1. 波形表示(W)

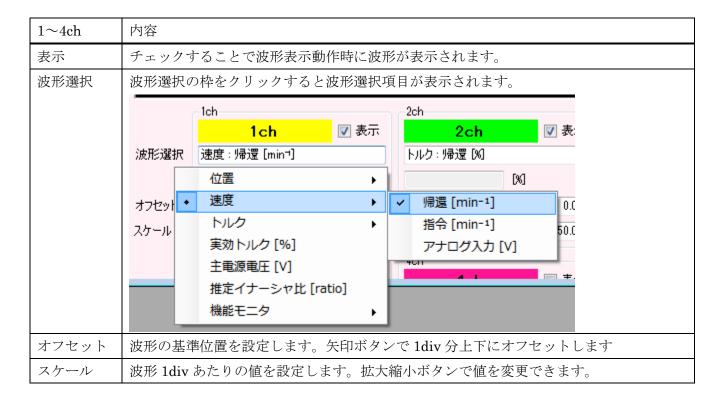


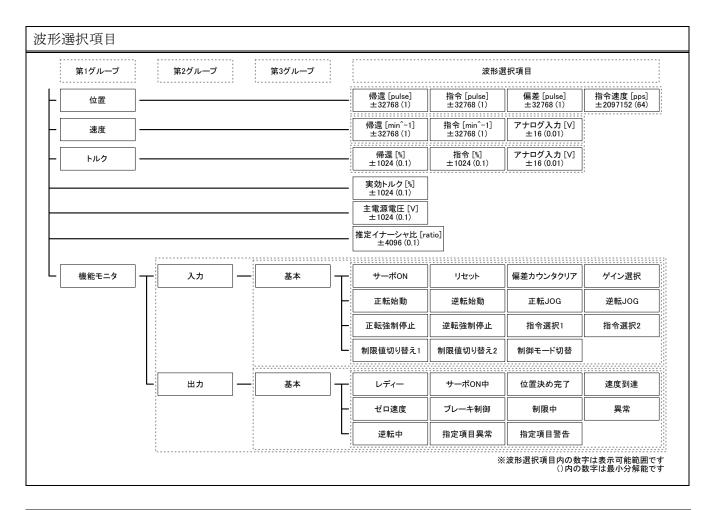
波形の保存	内容
参照	波形データを保存するファイルを選択します。
保存の有効	チェックを入れる事で、『Single』『Run』動作時に取得データが保存されます。
	データはファイルに上書きではなく、最終行に挿入されます。

動作	内容
Single	1 画面分の波形表示動作を行い停止します。
Run	波形表示動作を開始します。
Stop	波形表示動作を停止します。

波形表示動作中はモニタの更新は停止します。

ドライバとの通信が遮断されたり、ドライバが再起動すると波形表示動作は自動的に STOP します。





時間軸	内容
スケール	1div あたりの時間軸を設定します。
サンプリング時間	波形データをサンプリングする周期を設定します。
	スケールを設定することで推奨するサンプリング時間に自動で設定されます。

3.2.4.2. 試運転ツール(D)

試運転ツールは I/O(CN1)の配線を用いずにツールソフト上からモータを試運転させることが出来ます。



試運転ツール	内容
通信開始	試運転の通信を開始します。※①
通信停止	試運転の通信を停止します。※②
	通信停止時はサーボ、正転 JOG、逆転 JOG ボタンの状態はオフになります。
リセット	リセット入力と同じ動作をします。1push でオン状態は保持されません。
サーボ	サーボON入力と同じ動作をします。押すごとにオンオフが反転し状態が保持されます。
正転 JOG	正転 JOG 入力と同じ動作をします。押すごとにオンオフが反転し状態が保持されます。
逆転 JOG	逆転 JOG 入力と同じ動作をします。押すごとにオンオフが反転し状態が保持されます。

※①モータ動作中は試運転ツールの通信開始ができません。

必ずサーボ OFF 状態で通信開始してください。

試運転通信にはタイムアウトがあります。通信がビジー状態になると試運転通信は自動的に停止します。

※②試運転通信中に制御信号によるサーボ ON や各運転信号等の入力は絶対にしないでください。 通信停止時にモータが回転し、思わぬ事故の原因となります。

3.2.4.3. サーボ調整ツール(S)

サーボ調整ツールでドライバのゲイン調整を行うことが出来ます。

調整ツール展開中はツールバー『ドライバ内容』のボタンが効かなくなり、調整ツール上でパラメータの編集が行われます。

最終的にパラメータの変更を行わなくても、ツールバー『ドライバ信号』の『設定』右側の信号が (橙)に点灯する場合があります。

ツールバー『ドライバ内容』の『再取得』ボタンを押して消灯させてください。

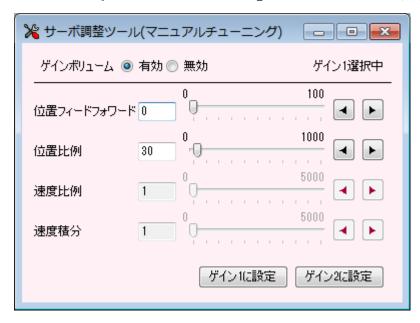
『ゲイン1に設定』、『ゲイン2に設定』ボタンを押すと、現在のドライバ内容の書き込みが行われます。

『サーボ調整パラメータ』『P200 チューニング方式』の設定により調整ウィンドウが違います。 ドライバとの通信が遮断されると、ツールは自動的に終了します。 パラメータ『P200 チューニング方式』がオートだった場合



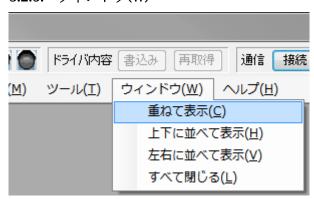
オート	内容
ゲインボリューム	有効で VR1 をチューニングレベルに、VR2 を応答レベルにします。
	無効でウィンドウ内の『チューニングレベル』をチューニングレベルに、『応答
	レベル』を応答レベルにします。
チューニングレベル	チューニングレベルの設定です。
	ゲインボリュームが無効で設定可能です。
	ゲインボリュームが有効時は VR1 の換算値が表示されます。
応答レベル	応答レベルの設定です。
	ゲインボリュームが無効で設定可能です。
	ゲインボリュームが有効時は VR2 の換算値が表示されます。
	$ m VR2$ による調整範囲は、 $ m 0.0 \sim 10.0$ となります。
	0以下の設定についてはゲインボリュームを無効に設定してください。
チューニングレベル、	サーボ調整パラメータ『ゲインボリューム』:『調整機能 1』または『調整機能 2』
応答レベル	を無効にして、チューニングレベルと応答レベルを『オートチューニング』:『ゲ
『ゲイン1に設定』	イン 1』または『ゲイン 2』の『チューニングレベル』『応答レベル』に設定して
『ゲイン2に設定』	ドライバに保存します。
推定イナーシャ比	実機運転でリアルタイムに計算している推定イナーシャ比です。
推定イナーシャ比	サーボ調整パラメータ『オートチューニング:イナーシャ推定』を無効にして、
『ゲイン1に設定』	推定イナーシャ比を『オートチューニング』:『ゲイン 1』または『ゲイン 2』の
『ゲイン2に設定』	『イナーシャ比』に設定してドライバに保存します。
	『イナーシャ推定未完了』が点灯中は設定できません。

パラメータ『P200 チューニング方式』がマニュアルだった場合



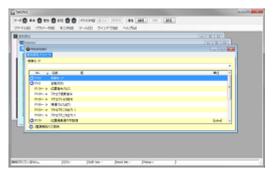
マニュアル	内容
ゲインボリューム	有効で VR1 を速度比例ゲインに、VR2 を速度積分ゲインにします。
	無効でウィンドウ内の『速度比例』を速度比例ゲインに、『速度積分』を速
	度積分ゲインにします。
位置フィードフォワード	位置フィードフォワードゲインの設定です。
位置比例	位置比例ゲインの設定です。
速度比例	速度比例ゲインの設定です。
	ゲインボリュームが無効で設定可能です。
	ゲインボリュームが有効時は VR1 の換算値が表示されます。
速度積分	速度積分ゲインの設定です。
	ゲインボリュームが無効で設定可能です。
	ゲインボリュームが有効時は VR2 の換算値が表示されます。
『ゲイン1に設定』	サーボ調整パラメータ『ゲインボリューム』:『調整機能 1』または『調整機
『ゲイン2に設定』	能 2』を無効にして、位置フィードフォワード、位置比例、速度比例、速度
	積分を『マニュアルチューニング』:『ゲイン 1』または『ゲイン 2』の『位
	置フィードフォワード』『位置比例』『速度比例』『速度積分』に設定してド
	ライバに保存します。

3.2.5. ウィンドウ(W)



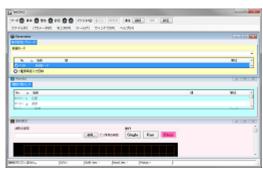
3.2.5.1. 重ねて表示(C)

現在開いているウィンドウを重ねて表示します。



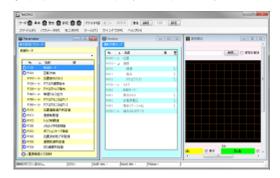
3.2.5.2. 上下に並べて表示(H)

現在開いているウィンドウを上下に並べて表示します。



3.2.5.3. 左右に並べて表示(V)

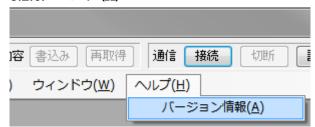
現在開いているウィンドウを左右に並べて表示します。



3.2.5.4. すべて閉じる(L)

現在開いているウィンドウをすべて閉じます。

3.2.6. ヘルプ(H)



3.2.6.1. バージョン情報(A)

通信ソフトのバージョン情報が表示されます。



3.3. ステータスバー



3.3.1. 接続状況

ドライバ - ツールソフト間の接続状況が表示されます。

表示	内容
接続されていません。	COM ポートがクローズしています。
接続しています。	ドライバとツールソフトが接続されています。
対象と通信できません。	COM ポートはオープンしていますが、ドライバと通信できません。ドラ
	イバ - PC 間の接続、ドライバの制御電源を確認してください。
通信対象ドライバではあり	ドライバと通信できましたが、ツールソフトの対応ドライバではありませ
ません。	ん。ドライバが GPX2 であることを確認してください。

3.3.2. シリアルナンバー

ドライバのシリアルナンバーが表示されます。

3.3.3. ドライバソフトウェアバージョン

ドライバのソフトウェアバージョンが表示されます。

3.3.4. ドライバハードバージョン

ドライバのハードウェアバージョンが表示されます。

3.3.5. モータ型式

ドライバのモータ型式が表示されます。

3.3.6. 備考

備考欄です。